

私の留学一年間

フオン ティ タイン (ベトナム・ハノイ大学)

皆さん、こんにちは。ベトナムから来ました、ティンと申します。友達によくアンというニックネームで呼ばれています。去年2014年10月から交換留学生としてお茶の水女子大学に通っています。まもなく10か月日本で暮らして来ました。この一年間を振り返ると、やはり様々な思い出が浮かびました。

まず、自分が好きなことからスタートします。日本に対する第一印象は人々の優しさです。日本に来る数日前には、空港へ迎えに来てくれる人が誰もいなく、寮まで一人で移動するのが非常に不安になりました。しかし、空港での案内者から道で会った知らないおばさんたちに至るまで熱心に助けていただいたおかげで、無事に寮へ移動できました。遠くの国から来たばかりの私にとって、その優しさがとても有難かったです。その後、学校の先生方、周りの先輩、友達から色々助けてもらったため、だんだん日本の生活、学校の勉強に慣れました。学生センターの担当者の方々がいつも丁寧にサポートしてくれること、先生の熱心な教える姿、学校の守衛さんの笑顔、そして、いっぱい良い本が並べてある図書館、相談室のコピー機、学食の美味しい料理は皆好きです。

日本の好きなことといえば、私にとって、景色の美しさは欠かせないものです。一年間の生活なので、ちょうど日本の四季の特徴を楽しむことができました。秋の紅葉（栃木の奥山で）、冬の温泉、真っ白の雪道（福島で）、春の桜（上野公園、山梨県で）、ネモフィラ畑（茨城、ひたち海浜公園）、夏の紫陽花（鎌倉市で）... 全部ものすごく印象に残りました



海浜日立公園



芝桜祭り

次は自分の中で一番変わってきたことが何かを続けます。それは多分物事に対する視点、考え方ではないかと思いました。日本、特にお茶の水女子大学に来てから、「グローバル」という言葉をよく耳にしました。ベトナムのような狭い世界にずっといた私には物事の見方、判断力、目の前についての考え方がある程度限られていました。しかし、自分の違う国に入ったとき、世界の国々から来た友達と交流することを通じて、母国のことが他国と何が違うのか、どんなところが良いか悪いかを省みる機会がありました。以前、ベトナムが全てだと思っていたが、今のところは、ベトナムが世界の一部であり、世界の舞台で何の役割を果たしているか、少なくとも感じられました。



JICA のボランティアをしよう！

次に、大変なことについての話なのですが、やはり日本で暮らしているとき一番大変なのがアルバイトです。最初は自分が社会からのマナーや経験などを学ぶだけではなく、生活費を補う目的としてアルバイトを始めました。実際にしてみると、確かに大変でした。私がアルバイトしていたのは飲食店でした。覚えるべきルールが本当に多く、運動量も多い仕事で

した。そして、学校の勉強とアルバイトと自分のリラックスの時間をほどよく分けるのがかなり難しかったです。しかし、アルバイトを始めてから数か月経て、生活のリズムになれると、なんだかうまく行くようになりました。アルバイトの経験のおかげで、どのように人間関係を維持するべきか、物事に対する丁寧な態度の大切さなど、ある意味身に付けることができました。

一年間長いと言えば長いのですが、本当にあっという間な気がします。家族の恋しさ、時々の辛さ、それから、新しいことを気づいた時の嬉しさ、全部重なってきて、一生忘れられない1年になりました。日本に一言言うならば、「本当にお世話になりました」と送りたいです。